

平成20事業年度

決算報告書

第3期

自 平成20年4月 1日

至 平成21年3月31日

公立大学法人 九州歯科大学

平成20年度 決算報告書

公立大学法人 九州歯科大学

1 収支計画予算

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差額 (決算－予算)	備考
費用の部	3,332	3,318	△ 14	
經常費用	3,332	3,315	△ 16	
業務費	3,085	3,093	7	
教育研究経費	386	393	7	(注1)
診療経費	595	666	71	(注2)
人件費	2,104	2,033	△ 70	(注3)
一般管理費	245	219	△ 25	(注4)
(減価償却費 再掲)	(164)	(172)	(7)	
財務費用	2	2	0	
臨時損失	—	2	2	(注5)
収益の部	3,332	3,447	114	
經常収益	3,332	3,439	107	
運営費交付金収益	1,689	1,658	△ 30	(注6)
授業料収益	324	332	8	(注7)
入学金収益	53	53	0	
検定料収益	10	6	△ 3	(注8)
附属病院収益	1,000	1,111	111	(注9)
受託研究等収益	6	18	12	(注10)
受託事業等収益	—	—	—	
補助金等収益	73	68	△ 5	(注11)
寄附金収益	16	13	△ 2	(注12)
資産見返運営費交付金等戻入	4	4	0	
資産見返補助金等戻入	97	97	0	
資産見返寄附金戻入	5	4	0	
資産見返物品受贈額戻入	19	18	0	
財務収益	1	1	0	
雑益	35	49	14	(注13)
臨時利益	—	7	7	(注14)
純利益	0	129	129	

(注記) 記載金額は百万円単位とし、表示単位未満については切り捨て表示しています。

○予算と決算の差異について

- (注1) 教育研究経費については、主として教育備品費が当初見込みよりも9百万円増加したこと、及び学術研究費が3百万円減少したことにより、予算金額に比して決算金額が7百万円多額となっています。
- (注2) 診療経費については、主として診療材料費が当初見込みよりも42百万円増加したこと、及び予算段階では見込んでいなかった診療機械等の更新(設備関係費)により36百万円増加したことにより予算金額に比して決算金額が71百万円多額となっています。
- (注3) 人件費については、主として職員人件費が当初見込みよりも55百万円減少したこと、及び教員人件費が14百万円減少したことにより、予算金額に比して決算金額が70百万円少額となっています。
- (注4) 一般管理費については、主として給与システムの機能追加のために当初見込みより5百万円増加したこと、及び保守業務委託その他管理経費の削減等により当初見込みより23百万円減少したことにより、予算金額に比して決算金額が25百万円少額となっています。
- (注5) 臨時損失については、主として附属病院における診療報酬過誤返納金を1百万円支払ったことにより、予算金額に比して決算金額が2百万円多額となっています。
- (注6) 運営費交付金収益については、主として予算段階での交付金査定人員と年度交付決定された査定人員に差異が生じたことにより当初見込みよりも12百万円減額したこと、及び法人事業による特別経費が12百万円減額したことにより、予算金額に比して決算金額が30百万円少額となっています。
- (注7) 授業料収益については、主として研究生が増加したことにより、予算金額に比して決算金額が8百万円多額となっています。
- (注8) 検定料収益については、受験者数が当初見込みを下回ったことにより、予算金額に比して決算金額が3百万円少額となっています。
- (注9) 附属病院収益については、入院収入が7百万円、外来収入が104百万円それぞれ当初見込みより増額になったことにより、予算金額に比して決算金額が111百万円多額となっています。
- (注10) 受託研究等収益については、主として受託研究収入が当初見込みよりも11百万円増額となったことにより、予算金額に比して決算金額が12百万円多額となっています。
- (注11) 補助金等収益については、臨床研修費等補助金の交付基礎となる臨床研修医受入数が当初見込みを下回ったことにより、予算金額に比して決算金額が5百万円少額となっています。
- (注12) 寄付金収益については、寄付金収入が当初見込みよりも減額になったことにより、予算金額に比して決算金額が2百万円少額となっています。
- (注13) 雑益については、主として財産貸付料収入が11百万円当初見込みよりも増額となったことにより、予算金額に比して決算金額が14百万円多額となっています。
- (注14) 臨時利益については、主として保険金収入が1百万円増加したことにより、予算金額に比して決算金額が7百万円多額となっています。

2 資金計画予算

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差額 (決算－予算)	備考
資金支出	3,328	3,413	84	
業務活動による支出	3,167	3,126	△ 40	(注1)
投資活動による支出	43	75	32	(注2)
財務活動による支出	55	61	6	(注3)
翌年度への繰越金	63	150	86	(注4)
資金収入	3,328	3,568	240	
業務活動による収入	3,228	3,431	202	
運営費交付金による収入	1,685	1,737	51	(注5)
授業料等による収入	414	405	△ 8	(注6)
附属病院収入	1,000	1,111	111	(注7)
受託研究等による収入	20	53	33	(注8)
補助金による収入	73	74	1	
その他収入	36	49	14	(注9)
投資活動による収入	1	1	0	
財務活動による収入	—	—	—	
前年度からの繰越金	99	135	37	(注10)

(注記) 記載金額は百万円単位とし、表示単位未満については切り捨て表示しています。

○予算と決算の差異について

- (注1) 業務活動による支出については、主として診療経費が当初見込みよりも59百万円増加したこと、及び職員人件費が57百万円、教員人件費が20百万円が当初見込みよりも減少したことにより、予算金額に比して決算金額が40百万円少額となっています。
- (注2) 投資活動による支出については、予算段階では未定であった診療機器の更新にかかる経費を執行したことにより、予算金額に比して決算金額が32百万円多額となっています。
- (注3) 財務活動による支出については、予算段階では未定であったリース資産(新医事システム等)取得に係る経費を執行したことにより、予算金額に比して決算金額が6百万円多額となっています。
- (注4) 翌年度への繰越金については、主として今年度計上した目的積立金103百万円を翌年度に繰り越したことにより、予算金額に比して決算金額が86百万円多額となっています。
- (注5) 運営費交付金による収入については、予算段階での診療収入予測と年度交付決定に適用された数値に差異が生じたことにより、予算金額に比して決算金額が51百万円多額となっています。
- (注6) 授業料等による収入については、主として検定料収入が当初見込みより3百万円少額となったことにより、予算金額に比して決算金額が8百万円少額となっています。
- (注7) 附属病院収入については、外来収入が104百万円、入院収入が7百万円それぞれ当初見込みよりも増額となったことにより、予算金額に比して決算金額が111百万円多額となっています。
- (注8) 受託研究等による収入については、主として受託研究収入が当初見込みよりも増額となったことにより、予算金額に比して決算金額が33百万円多額となっています。
- (注9) その他収入については、主として財産貸付料収入が11百万円当初見込みよりも増額となったことにより、予算金額に比して決算金額が14百万円多額となっています。
- (注10) 前年度からの繰越金については、予算段階では未定であった19年度余剰金について福岡県から余剰金の用途の承認を受け、目的積立金として計上したことにより、予算額に比して決算金額が37百万円多額となっています。